

北条道路の完成像体感

北条でAR実演説明会

山陰道北条道路(湯梨浜町はわい長瀬—琴浦町槻下、13・5キロ)の完成像を3次元的に体感してもらおうと23日、北条町内でAR(拡張現実)技術を用いた実演説明会があった。地域住民ら8人が参加し、現実空間と仮想空間が融合した最新技術映像を通して、完成後の北条道路のイメージを膨らませた。

同道路は2026年度に全線開通する見通し。これまでの住民説明会で「設計図面や立体模型だけでは分かりにくい」との声を受け、国交省倉吉河川国道事務所が企画した。

用意したAR技術は、あらかじめプログラムされた建設予定道路をカメラレン

ズを通して画面上に表示するタイプと、人工衛星を使って位置情報を判断し表示するタイプの2種類。どちらも現実世界と将来の北条道路が同一画面上に映し出された。

同町西園自治会の中村宏会長(66)は「なんとなくイメージしていたものが、より理解できた。住民との協議に役立つと思う」と話した。

(池田悠平)



建設予定地に出向き、タブレットに映し出された北条道路の完成像に見入る参加住民＝23日、北条町西園